

国際サンゴ礁イニシアティブ（ICRI）の概要

1. 経緯等

- ・サンゴ礁は「海の熱帯林」と呼ばれるほど生物多様性が大きく、国際的にもその保全と国際協力の必要性が認識。
- ・サンゴ礁の保全が、地球的規模に立った日米協力（日米コモンアジェンダ）の優先分野とされ、1994年には豪等の協力も得て、サンゴ礁保全と持続可能な利用に関する包括的な国際的な枠組である国際サンゴ礁イニシアティブ（ICRI: The International Coral Reef Initiative）を開始。
- ・日本は、米、豪とともに、ICRIの発足時からその活動を積極的に推進。特に東アジア海地域・太平洋地域について主導的な役割を果たしてきた。

2. 国際サンゴ礁イニシアティブ（ICRI）の主たる活動

ICRIは、1995年に採択された「行動の呼びかけ（Call to Action）」及び「行動の枠組み（Framework for Action）」に基づき、研究・モニタリング、持続可能な管理、能力養成、活動の評価・再検討等を推進。具体的には次のような活動を実施。

- ・地球規模のサンゴ礁モニタリングネットワーク（GCRMN）の構築。
- ・調整企画委員会（CPC）及びICRIフォーラム（インターネット上のフォーラム）を通じて情報交換。
- ・ワークショップの開催やマニュアル作成による途上国の能力強化。

3. 組織等

- ・企画調整委員会（CPC）：年に1～2回開催される会合。ICRIの総会的役割。途上国の参加を得るために、地域を巡回して開催。
- ・事務局：参加先進国が持ち回りで担当。
 - 1995～1996年：アメリカ
 - 1997～1998年：オーストラリア
 - 1999～2000年：フランス
 - 2001～2003年：スウェーデン/フィリピン
 - 2003～2004年：イギリス/セイシェル
- ・資金：独自の資金メカニズムはなく、参加国が資金調達。

4. ICRI推進のための我が国の主な取組

- ・1997年2月：第2回ICRI東アジア海地域会合を沖縄で開催。
- ・2000年5月：GCRMNにおける東アジア海地域の拠点を目的とした国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターを沖縄県石垣島に開所。
- ・2000年：「サンゴ礁管理のための社会経済マニュアル作成」の支援。
- ・2002年3月：上記センターにて東アジア海地球規模サンゴ礁モニタリングネットワークの国際ワークショップ開催。
- ・上記の他、東アジア海地域のリード国として毎回CPCに参加。